

1 学習に取り組んでいる主な分野

☐ 生物多様性	☐ 海洋	☒ 防災・減災	☐ 気候変動
☒ エネルギー	☒ 環境	☐ 文化多様性	☒ 世界遺産・文化財
☐ 国際理解	☒ 平和	☐ 人権	☐ ジェンダー平等
☒ 福祉	☐ 生産と消費	☐ その他（ ）	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「地域とのつながり、直接体験の重視」を活動テーマとして、E S Dを環境、経済社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすことと捉え、E S Dの実践を通して「人」とのつながりから、共生社会の生き方について考える力の育成を目標とした。

具体的には、環境・エネルギー、地域遺産・世界遺産、人権・福祉を柱に、①高齢者や障がいを持った方との交流学习、②身の回りの環境にかかわる活動、③地域の文化遺産にかかわる学習を行った。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ 高齢者や障がいを持った方との交流学习

福祉教育との関連から、高齢者の方の生活について調べる活動を通して、苦労や努力、工夫や願いを知り、高齢者の方と共に生きるためのまちづくりやユニバーサルデザインなどについて調べる学習を仕組んだ。この学習を通して、みんなが安心して暮らせるようにできることを考え、いろいろな人と進んでかかわりをもとうとする気持ちを育てることができた。

また、6年生では修学旅行を通して長崎に落とされた原爆の恐ろしさや、平和の尊さを学び、世界中の人たちが平和に暮らしていけるようにすることについて考えたり、自分の考えについて新聞づくりを通して発信したりした。



○ 身の回りの環境に係わる活動

自分たちの生活の中からごみ処理やリサイクルについての課題を見つけ、日常生活で出てくるごみを減らすためにできることについて調査活動を行った。その後、ごみを減らすための工夫を考え、行動を具体化するために、プログラミング的思考を働かせ、生活に生かすことができるように学習を仕組んだ。この学習を通して、環境を守るために3Rの視点で物を見つめ直すなど、自ら考えたことを継続して実践する子どもの姿が見られた。



○ 地域の文化遺産に係わる学習

大牟田の行事・名所・特産物などをまとめて交流する活動を通して、郷土のよさに気づき、それらを知ってもらいたいという郷土を愛する心情を育てるようにした。また、地域に残る文化遺産を実際に見たり、パンフレットや本などの資料から調べたりしたことを、工夫して表すことができた。そして、今年度5年目となる、地域住民やPTAと連携して「地域を花と挨拶でいっぱいにする」ための、『銀水花いっぱい絆プロジェクト』に取り組んだ。地域の方との交流が難しい中でも、まちづくり協議会の方を中心に連携して地域とのつながりを意識することができた。子どもたちのために花壇を手入れしてくださったことを知り、子どもたちは郷土への愛着が高まり、地域の方々への感謝の気持ちをより一層もつことができた。



3 今後の活動計画

令和5年度は、ESDにおいてさらに、人・もの・こととのつながりを柱とした体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、

1. 子どもの実態を把握し、身の回りのことから視野を広げ、未来につながる行動をしていく児童を育てるカリキュラムを見直す。
2. 各教科・領域等で身につける内容を生かしたESDを推進できるようにする。
3. 子どもたちが自分事として問題に取り組むためのストーリーマップを作成し、教職員で共通理解・共通実践できるようにしていく。
4. ICTを活用して地域とつながりができるように、校内研修を通して実践事例を蓄積していく。